

授業科目名	合奏	担当形態	演習		
		開講学期	春学期		
担当教員	山田 洋一	単位	1	年次	3

＝授業のテーマ及び到達目標＝

初等・中等教育の現場で必要な合奏にかかわる音楽的技術・技能及び豊かな感性・表現力を身に付けるために、現場での実践力を修得し実践に向けての方法論を獲得、理解できるようにする。常に学校現場を意識しよりよい指導者としての音楽的実力・感性・指導力を習得する為に、現場で用いられる簡単な楽譜を読譜し、豊かな表現力で歌唱・器楽合奏が出来るようになる事が到達目標である。将来教職希望の学生の受講が望ましい。

＝履修の条件と学習の方法＝

実技形式で行なうが、小編成器楽合奏（アンサンブル）から大編成器楽合奏に移行する。音楽的知識や合奏の技術を学び、初等・中等教育の学年に応じた音楽づくりなども行ないながら様々なジャンルの音楽を合奏し、合奏の指導法を身に付ける。色々な楽器を進んで体験する事。アンサンブルメンバーとの協調性、バランス感覚、配慮、ルールやマナーなど人間関係の構築を念頭に置く事が望ましい。

遅刻（早退・中途退席）2回で欠席1回と見なす。

＝授業の概要＝

演習形式である。さまざまな楽器で修得した音楽的技術を児童・生徒の発達に即した合奏表現に関連させ学習する。そのための器楽奏法・音楽創作活動の技術・技能の一層の向上をはかり、教育現場での実践を合奏活動・音楽表現活動などを中心とした総合的な表現能力を身に付ける。

＝授業計画＝

- 第1回 ガイダンス（授業内容・進め方・到達目標等についての説明と具体的な合奏体験をする。）
- 第2回 リズムアンサンブル1（小学校低学年で身に付けたいテンポ感・リズム感を培う為のアンサンブル実践）
- 第3回 リズムアンサンブル2（リズム創作から形式を踏まえたリズムアンサンブル小テスト Vol.①実施、（初等・中等教育の指導要領の共通事項を基本とする）
- 第4回 鍵盤ハーモニカ実習1（鍵盤ハーモニカの指導法を身につけさせる。実践を通し楽器の奏法を身につけさせる。）
- 第5回 鍵盤ハーモニカ実習2、リコーダー実習1（鍵盤ハーモニカの奏法をアンサンブル実践を通し楽器の奏法を身につけさせる。リコーダーの指導法を身につけさせる。CD鑑賞。）
- 第6回 リコーダー実習2（リコーダーの演奏法を身につけさせる。）
- 第7回 リコーダー実習3（リコーダーの歴史とアンサンブル。小テスト Vol.②実施。初等・中等教育の指導要領の共通事項を基本とする。）
- 第8回 歌を合わせて（リコーダー・鍵盤ハーモニカ・合唱とのアンサンブル。MIDIデータ作成、活用法。DVD鑑賞。）
- 第9回 小物打楽器実習（学校で使われている小物打楽器の奏法と扱い方。）
- 第10回 アンサンブル（小～中編成の合奏指導の工夫。）
- 第11回 大合奏（大合奏の合奏指導の工夫。小テスト Vol.③実施。初等・中等教育の指導要領の共通事項を基本とする。）
- 第12回 指揮法（児童・生徒に解りやすい指揮の仕方。）
- 第13回 合奏練習1（合奏発表用のグループ、曲目、編成決めと練習。）
- 第14回 合奏練習2（グループ練習とコンサトリハーサル。小テスト Vol.④実施。初等・中等教育の指導要領の共通事項を基本とする。）
- 第15回 まとめ（アンサンブル発表。録音し評価を兼ねる。）

=テキスト（必携）=

=参考書・参考資料（必携）=

=成績評価の方法と評価の基準=

初等・中等教育で必要な簡単な楽典等の小テストを複数回実施する。
アンサンブル発表を行い、その中での積極性、協調性や出席状況など総合的に判断する。

=その他=

ソプラノリコーダー・アルトリコーダー・鍵盤ハーモニカを各自用意してください。
（リコーダーはバロック運指が望ましい）
テキストは、講師作成のものを使用します。